

2018年、早くも12月になりました。

今年は、高槻を震源とする地震があり、幼い小学生の子供さんが亡くなり、暑い暑い日が続いて、9月に入ると今までにないような台風に見舞われ、いまなお自然災害の傷跡がたくさん残っています。高槻の南部は沢山ブルーシートがかけられた家をよく見かけます。また、檜田方面に向かうと、どの山々の斜面の木々がなぎ倒された状態で残っており心痛みます。木々の間隔がそこそこあるのに、木肌の皮がほとんどなくなった状態で、台風のすごさを感じます。

最近では、街路樹のケヤキも紅葉し、落ち葉となり舞い落ちる、毎日掃くことが日課ですが、このような自然には心やすまります。

来年に向けて、何か新しい事を始めるきっかけづくりに。日経新聞の「春秋」を11月4日付の切り抜きを、従業員に読んでもらい。考えられること、思いつくことを、書いて提出してもらいました。

新聞の内容は、奈良にクレコスという化粧品会社がある。農家が耕作放棄地を再生し自然栽培した茶葉などを仕入れて、原料に使う。加工やパッケージ生産に、社会福祉法人などを通じ障害者や高齢者の力を活かす。こうした経営姿勢が消費者の心をとらえ売り上げを伸ばしている。

本業であるものづくりで社会問題の解決に一役買おう。そう考える企業が増え支持を集めている。3年ほど前に出版された「その商品は人を幸せにするか」には、有機食品を開発する大手小売業や廃材でバックを作るメーカーなどが次々に登場し、広がりを実感できる。

学校で環境教育が定着し、家でもネットで途上国など産地の状況が手軽にみられる。そのため若い世代ほど商品の作られた背景に目を配る傾向が強いという。・・・・・・

以下に従業員が考えたことを箇条書きにします。

- 剪定作業に出ている人は切った枝や抜いた切り株などを「剪定ゴミ」と捨てる前に枝物やフラワーアレンジメントの材料として使えるかどうかを考える事が大切。
- 1つ1つの仕事や物に対する視点や考え方を変えれば、新しい商売につながるかもしれない、ということを入念に入れながら、仕事に取り組む。
- 「その商品は人を幸せにするか」この営業姿勢も見習うべき。
- ただ単に、元々現場にある土を使用して植栽するのではなく、土壌改良の重要性をお客様に伝える。
- 定期的な巡回や消毒、お手入れなど、植物にも、お客様にも、丁寧に接することが大切と思った。
- こうした心がけで、仕事をしていれば、会社の売り上げ向上、自分自身の知識や技術の向上につながっていくのではないかと。

- ・ECO・環境に優しい・無農薬・オーガニックなどその言葉がついているだけで、その商品の事を信頼して、良いものを使っているような気になる。
- 「その商品は人を幸せにするか」という所につながる様に、花屋としても買われた方、大きい範囲では地球のために、何かできる事。良いことを広めることが出来れば良いと考える。
- 植樹関連のボランティア、シルバー人材センターの方に手伝っていただく。他にもたくさんの考えを、提出してくれました。

上記のような考え方を踏まえ、わが社では来年から、高齢者の方や知的障害の方々にも少しでも貢献できるような取組みを具体的に考え、第一歩を踏み出したところで

す。
高齢者の方には、いつまでも元気、健康でいただくために、園芸に取り組んでいたのが健康づくりによいとよく言われているので、花の苗、肥料、用土などなど、安価な商品でも気持ち良く自宅までお届けし、その際に、育て方など、説明も丁寧にする事などから取り組み始めました。

今年1年間 お付き合いいただきありがとうございます。

良いお年をお迎えください。

2018年11月27日 西井 忠義